

● **schedule**

1月22日(土) | アニック・ドムール セレクション
Annick DEMEULE selection

1月23日(日) | ハンナ・ローズ・シェル セレクション
Hanna Rose Shell selection

- 13:00 ~ 開催のあいさつ、ゲスト講師紹介
- 13:30 ~ 解説と上映【作品①～④】
- 15:00 ~ 質疑応答
- 15:10 ~ 休憩
- 15:20 ~ 解説と上映【作品⑤】
- 18:10 ~ 質疑応答
- 18:20 ~ 休憩
- 18:40 ~ 解説と上映【作品⑥～⑦】
- 19:30 ~ 質疑応答
- 20:00 ~ Surprise 上映
- 20:30 終了

- 13:00 ~ 開催のあいさつ、ゲスト講師紹介
- 13:20 ~ 解説と上映【作品①～③】
- 14:00 ~ 質疑応答
- 14:15 ~ 解説と上映【作品④～⑦】
- 15:30 ~ 質疑応答
- 15:50 ~ 休憩
- 16:00 ~ 解説と上映【作品⑧】
- 17:40 ~ 休憩
- 18:00 ~ 解説と上映【作品⑨】
- 20:00 ~ 質疑応答
- 20:30 終了

* 両日とも、すべてDV上映となります。* 記載の上映作品は当日のものと異なることがあります、あらかじめご了承ください。

● **commentator**

アニック・ドムール | Annick DEMEULE

パリの映画学院と東洋語学校(パリ第8大学)で学ぶ。1967年、映画博物館世界連合の展示および国際催事の企画・運営を担当。1973年、フィルム・ドゥ・ロムにおいてジャン・ルーシュの制作マネージャー兼研究助手を務める。1975年、国立科学研究センター(CNRS)に入り、現在に至るまでCNRS研究員である。最初は制作部(以前のSERDDAV、のちにCNRS オーディオビジュアル)の立ち上げと運営にたずさわる。1995年にCNRS 映像・メディア FEMIS-CICTの事務総長。現在はUNESCOの「教育と研究」部会議長、UNESCOのIFTIC(国際映画・テレビ・オーディオビジュアルコミュニケーション評議会)運営委員会委員、ICS(フランス科学映画学院)会長、ベル・シエンシア財団名誉会長を務めている。



ハンナ・ローズ・シェル | Hanna Rose Shell

映画制作者、映画とメディアの歴史、ならびにマルチメディアによるインスタレーション・アートを制作研究。ロード・アイランド・スクール・オブ・デザイン(RISD)、ハーバード・カレッジで講義、演習、メディア制作コースを担当。2002年、エール大学から米国研究でM.A.授与。2007年11月、ハーバード大学から科学史研究で博士号を授与。現在、マサチューセッツ工科大学(MIT)で科学、技術、社会プログラムの助手を務めている。2005年、科学におけるクロノフォトグラフィック実践史に関する映像作品 Locomotion in Water を発表。2007年、テキスタイルの再生、ディアスポラカルチャー、クロスカルチャーの歴史に関する、Secondhand (Pepe): Lives and Afterlives of the Social Fabric を発表。

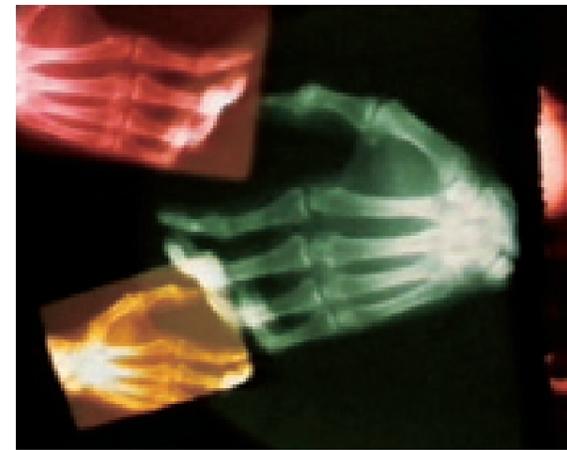
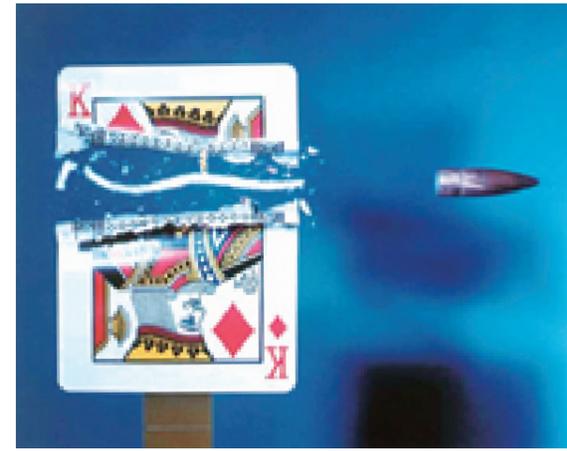


大森康宏 | OMORI Yasuhiro

立命館大学映像学部長、国立民族学博物館、総合研究大学院大学名誉教授。1943年東京都生まれ。フランス・パリ第10ソルボンヌ大学民族学部博士課程修了。国立民族学博物館を経て、2007年より現職。民族学博士。専門は映像人類学(民族誌映画)。主な著書に「映像としての文化—民族誌映画をめぐって—」(青木保、他編『岩波講座文化人類学第13巻 文化という課題』、岩波書店、1998年)、「映像人類学 人はじめ」(伊藤俊治・港千尋編『映像人類学の冒険』、せりか書房、1999年)など。主な展覧会企画に「進化する映像 影絵からマルチメディアへの民族学」展(国立民族学博物館、2000年)、「聖地★巡礼 自分探しの旅へ」展(国立民族学博物館、2007年)がある。映像作品には『私の人生 ジブシー・マヌーシュ』(77)が、1985年イタリア・パレルモ第2回地中海に関する映像人類学映画大会グランプリ受賞。『烏帽子の子たち』(85)、『土と火と水の葬送—バリ島の葬式—』(90)などがあり、『津軽のカミサマ』(94)が、1995年フランス・パリ第14回民族誌映画大会ナヌーク賞(グランプリ)受賞。現在、自然科学にたずさわる研究者の生き方、考え方についての映像制作も手がけている。



科学映像 の まなざしと 人類



二〇二一年
一月二十二日(土)、二十三日(日)
立命館創始一四〇年・学園創立一一〇周年記念企画
会場 || 立命館大学衣笠キャンパス 充光館三〇一教室
料金 || 無料
定員 || 一七〇名(当日先着順)
主催 || 立命館大学映像学部

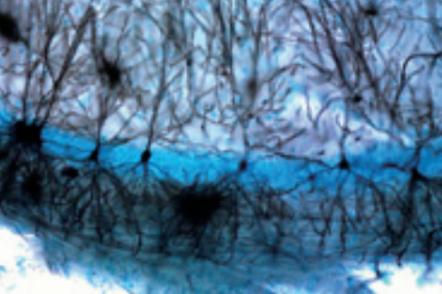
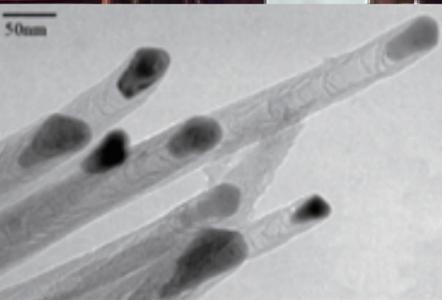
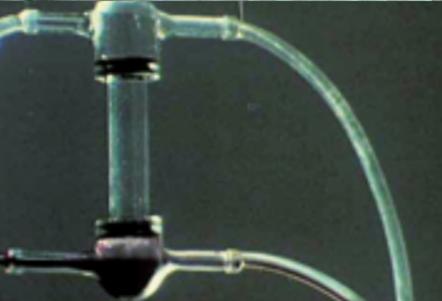
[お問い合わせ]

立命館大学映像学部
Ritsumeikan University
College of Image Arts and Sciences
〒603-8577
京都市北区等持院北町56-1
TEL : 075-465-1990
FAX : 075-465-8193
ritsumei.eizo.kagakueizo@gmail.com
http://www.ritsumei.ac.jp/eizo/

立命館大学衣笠キャンパス

- JR・近鉄京都駅
市バス50 / 快速205にて(約35分)
「立命館大学前(終点)」下車
市バス205にて約35分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
JRバスにて約30分、「立命館大学前」下車
- 阪急電車西院駅
市バス快速202 / 快速205にて(約20分)
「立命館大学前(終点)」下車
市バス205にて約20分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
- 阪急電車河原町駅(四条河原町)
市バス12 / 51にて(約40分)「立命館大学前(終点)」下車
- 京阪電車三条駅
市バス15 / 59にて(約30分・市バス15は終点)
「立命館大学前」下車





科学映像のまなざしと人類

人類は科学的な思考によって飛躍的な進歩を達成してきた。とりわけ19世紀の写真の発明に続く映画によって、情報量は膨大なものとなった。科学研究が急速な進歩を遂げていく中で、映像による科学の「可視化」は、研究成果を記録することだけでなく、裸眼で見ることが不可能とされた世界をレンズをとおして見ることでできる世界へと変え、人間の視覚を拡張してきた。

今日21世紀に入り、インターネット社会となり、科学の映像は瞬時に手にすることができる。しかし人類はこのまま科学映像を鵜呑みにしてもよいのだろうか。現在、世界の科学者は映像の理論と科学、あるいは言語による科学理論についての現状を、もう一度科学映像の歴史とともに再考察しようとしている。今回の科学映像特集上映会では、見えないものを見てきた、欧米諸国の様々な映像を取り上げ、その魅力を探るとともに、その意義を検証する。

1月22日(土) | アニック・ドムール セレクション Annick DEMEULE selection

① 液体空気について L' Air liquide
1910年 / 12分 *作者不明
初期の教育映画の一つ。

② 甲殻類の動物学 Zoologie des crustacés
1912年 / 5分 *作者不明
フランスの海岸にみられる主な甲殻類についての研究映像。

③ 平衡から離れて Loin de l' équilibre
1978年 / 30分
監督：アラン・ブド、クリスティアン・モンセル Alain Bedos et Christian Moncel
熱力学の基本概念を紹介している。生物に類似した振る舞いを示すことができるのは、複雑なBR反応、化学時計、生態学的揺動など、諸化学反応が空間内での非均一分布を生じさせるような事例である。たとえば大腸菌と細菌群の動き。

④ コレージュ・ドゥ・フランスのサイクロトロン研究者たち
Les cyclotrons du Collège de France
2006年 / 29分
監督：マルセル・ダレーズ Marcel Dalaise
コレージュ・ドゥ・フランス核化学研究所で製作されたフランスで最初のサイクロトロンは1938年に稼働し、その20年後に改造され、核反応研究が可能になった。フレデリック・ジョリオの開発技術チームはこのビッグサイエンスの黎明期を体験した。

⑤ ナノサイエンス、ナノテクノロジー Nanosciences, nanotechnologies
2008年 / 2時間40分
監督：マルセル・ダレーズ、アラン・モンクラン、フランソワ・ティセール、エルベ・コロバンニ Marcel Dalaise, Alain Monclin, François Tisseyre, Hervé Colombani
新しい世界が形成されている。奇妙なふるまいをするモノに満ちたその世界はナノメートルの世界、原子や分子サイズの宇宙なのである。その世界を発見する驚くべき旅への誘いである。

- 第1部：ナノワールド
- 第2部：研究機材
- 第3部：分子とナノマシーン
- 第4部：ニュー・エレクトロニクス
- 第5部：生物学とナノラボ（精密実験システム）

⑥ 見えないものの望遠鏡 Les télescopes de l' invisible
2008年 / 24分
監督：マルセル・ダレーズ Marcel Dalaise
ナミビア共和国のガンスベルグ近郊に設置された4基の望遠鏡群による高エネルギー複眼観測システム (HESS) によって、超高エネルギーのガンマ線を検出する研究がおこなわれている。現在では9ヶ国100人を超える研究者たちが、この超高エネルギーガンマ線天文台で研究を進めている。

⑦ 無限小を見つめる20の視線 Vingt regards sur l' infiniment petit'
2010年 / 21分
監督：ジャン＝マルク・セレル Jean-Marc Serelle
国立科学技術研究所 (CNRS) 映像部の写真技術基金から生まれた科学映像の中から、研究という彼らの情熱の複雑さのなかで撮影された科学者たちの、風変わりな詩的で意外な20人の横顔を紹介する。

1月23日(日) | ハンナ・ローズ・シェル セレクション Hanna Rose Shell selection

I. SPACES

① 10のべき乗 Powers of Ten
1968年 / 9分
監督：チャールズ & レイ・イームズ Charles and Ray Eames
縦横1mの画面からはじめて、1mだけ離れたところから見てみる。次に、10秒ごとに、10倍離れたところから見る、そうすると我々の視野は10倍広がる。

② 四次元 The Fourth Dimension
1936年 / 10分
監督：ジャン・パルヴェ、アキユ・デュフォ Jean Painlevé with Achilles Dufour
見えない時間の次元の見方。

③ 空への旅 Voyage to the Sky
1937年 / 10分
監督：ジャン・パルヴェ、アキユ・デュフォ Jean Painlevé with Achilles Dufour
惑星間の距離は見ることもできるのか。

II. BODIES

④ 水中移動 Locomotion in Water
2005年 / 13分
監督：ハンナ・ローズ・シェル Hanna Rose Shell
エチエンヌ＝ジュール・マレーの作品を中心に組織された2本の相互連結された実験ドキュメンタリー。運動を観察し、科学をおこない、魚を撮影した映画。物語は過去と現在、テキストとイメージ、旅の話と夢の間をさまよう。

⑤ 珪藻類 Diatoms
1968年 / 17分
監督：ジャン・パルヴェ、ジュヌビエーヴ・アモン Jean Painlevé and Geneviève Hamon
顕微鏡と微細なプランクトン植物の映像世界に関する叙情的作品。フィルムのおかげで細胞のリボンが踊る。

⑥ 液体結晶 Liquid Crystals
1978年 / 6分
監督：ジャン・パルヴェ、イヴ・ブリガン Jean Painlevé and Yves Bouligand
結晶化する物質の晶相温度変化を視覚化し、音楽に合わせて抽象化したイメージをつくりあげている。

⑦ サンクタス Sanctus 1990年 / 20分
バイタルサイン Vital Signs 1989年 / 10分
監督：バーバラ・ハマー Barbara Hammer
バーバラ・ハマーによる2つの実験映画 (科学、医学と文化の分野での映像制作の刺激的な探究)。

III. WORLDS

⑧ 平衡を失った世界 Koyaanisqatsi
1982年 / 87分
監督：ゴッドフリー・レッジョ Godfrey Reggio
ホビの言葉で「常軌を逸し、混乱した生活。平衡を失った世界」。作中に映しだされる現代人の生活様式への言及。

⑨ 世界の終わりでの出会い Encounters at the End of the World
2007年 / 111分
監督：ヴェルナー・ヘルツォーク Werner Herzog
「地図に載っていない、遠く離れた場所ではすべてが全く違っている」。南極が舞台の作品。

